

7-9 その他

(1) ジオガイドネットワーク及び地域ガイド組織への活動支援

計 画 内 容

四国西予ジオガイドネットワークの活動と地域ガイド組織の活動を支援し、ガイド同士の交流促進、ガイドスキルの向上を図る。

1. 現状・課題

平成 26 年 7 月に四国西予ジオパーク内のガイド活動や会員同士の情報共有、他地域との交流促進を目的として、ジオガイド団体である四国西予ジオガイドネットワークが設立されている。

また、地域づくり組織や地域関係者で構成されているジオガイド組織は、そこで暮らしている住民ならではの話ができる「ローカルジオガイド」であり、ジオ多様性を特徴とする四国西予ジオパークは、ツアーの目的や楽しみ方を引き出すために、双方のジオガイド組織を連携させながら推進していく必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオガイドネットワーク及び地域ジオガイド組織の活動を支援し、ガイド同士の交流促進やジオガイド養成講座、ステップアップ研修等を通じたガイドスキルの向上に努める。また、新規ガイドの人材発掘やジオに興味を持つ人たちが参加しやすい環境整備を行いながら、会の活動を継続的に支援し、ツアーだけでなく、イベント、教育活動などでガイドが活躍できる機会を積極的に創出していく。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
他 GP とのガイド交流											

4. 達成目標

■ガイド交流会件数 年2回以上

(2) JGNやブロック地域と連携した活動の推進

計 画 内 容

JGN内での連携プログラムの推進や、中四国近畿ブロックと連携した活動を行い、他地域における先駆的・効果的な活動を学びながら、ジオパーク活動の質の向上やネットワーク間の連携強化に努める。

1. 現状・課題

日本ジオパークネットワークでは、親子で体験できる岩石標本づくりや防災教育など、他のジオパークと連携したプログラムを共同で実施している。

また、地域を6ブロック（北海道・東北・関東・甲信越中部・中四国近畿・九州）に区分し、各ブロックが主体となったジオパーク活動の推進も重要であるため、ブロック会議の開催やブロック研修会等への参加を積極的に行い、日本ジオパークネットワークの一員として他地域との相互交流や情報交換に努める必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、日本ジオパークネットワークの活動及び中四国近畿ブロック活動を継続的かつ効果的に行い、ジオパークとしての質を高めていく。

また、中四国近畿ブロックよりも比較的参集が容易である四国内のジオパーク関係地域とは、より密接なネットワーク形成を進め、事業運営における課題や先行的な施策の



日本ジオパーク全国大会ブロック別パビリオン

共有、ガイド同士の交流を図り、ネットワークの連携強化に努める。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
JGN 連携プログラムの実施											
中四国近畿ブロック連携 プログラムの実施											
四国ネットワーク プログラムの実施											

4. 達成目標

■ブロック会議の開催 年1回以上

表5. 日本ジオパークネットワーク・中四国近畿ブロック構成団体

	地域名	構成市町村
①	山陰海岸	兵庫県豊岡市、香美町、新温泉町、京都府京丹後市、鳥取県鳥取市、岩美町
②	室戸	高知県室戸市
③	隠岐	島根県隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村
④	四国西予	愛媛県西予市
⑤	南紀熊野	和歌山県新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、奈良県戸津川村
⑥	Mine秋吉台	山口県美祢市
⑦	島根半島・ 宍道湖中海	島根県松江市、出雲市
⑧	萩	山口県萩市、山口市、阿武町
⑨	土佐清水	高知県土佐清水市
⑩	三好	徳島県三好市

(3) 海外のジオパーク等との交流・連携

計 画 内 容

認定前から愛媛大学の支援で交流をつづけているインドネシアのゴロンタロ州をはじめとする海外の地域と連携を図る。

1. 現状・課題

インドネシアのゴロンタロ州はジオパークを目指した取り組みを愛媛大学の支援で行っている。西予市として可能な支援と交流を行い、ジオパークネットワークとしての貢献につなげる。

2. 計画詳細

ゴロンタロ州からは、今まで2回（2013年・2018年）、四国西予ジオパークへの訪問があり視察や意見交換等を行っている。また、アジア地域からの留学生が多い愛媛大学と協働して、ジオサイトを有する市内地域組織が野外活動や民泊などによる地域との交流を続けている。

ジオパークの視点を共有しながらの交流を継続し、海外地域との連携につなげていく。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
留学生受け入れ											

4. 達成目標

■留学生受け入れ件数 年2回以上

(4) 推進協議会体制の強化

計 画 内 容

四国西予ジオパーク推進協議会内の各部会活動や、各団体同士の情報交換、連携事業等を推進し、市民が主体となったジオパーク活動の充実を図る。

1. 現状・課題

市内約 50 の組織により平成 24 年 7 月に設立された四国西予ジオパーク推進協議会は、平成 29 年に部会の体制等の変更を行い、各種事業を部会主導で実行する活動的な組織へと変化している。継続して組織強化を図っていく必要がある。

2. 計画詳細

四国西予ジオパーク推進協議会は、各部会の自主的な活動を支援し、会に所属する各団体同士の密接な情報交換や連携事業、農協や商工会、協議会員等が独自に進めるジオパークを活用した取り組み等を支援する。

また、ジオパークを持続可能な取り組みとするために、これまでの推進体制をさらに見直し、部会員や会員からの声やアイデアを自らが具体化していけるような仕組みづくりを行う。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
部会の開催											
会員企画イベントの実施											

4. 達成目標

- 協議会員が行うジオパーク活用事業数 年 5 件以上
- 協議会部会活動件数 年 15 回以上

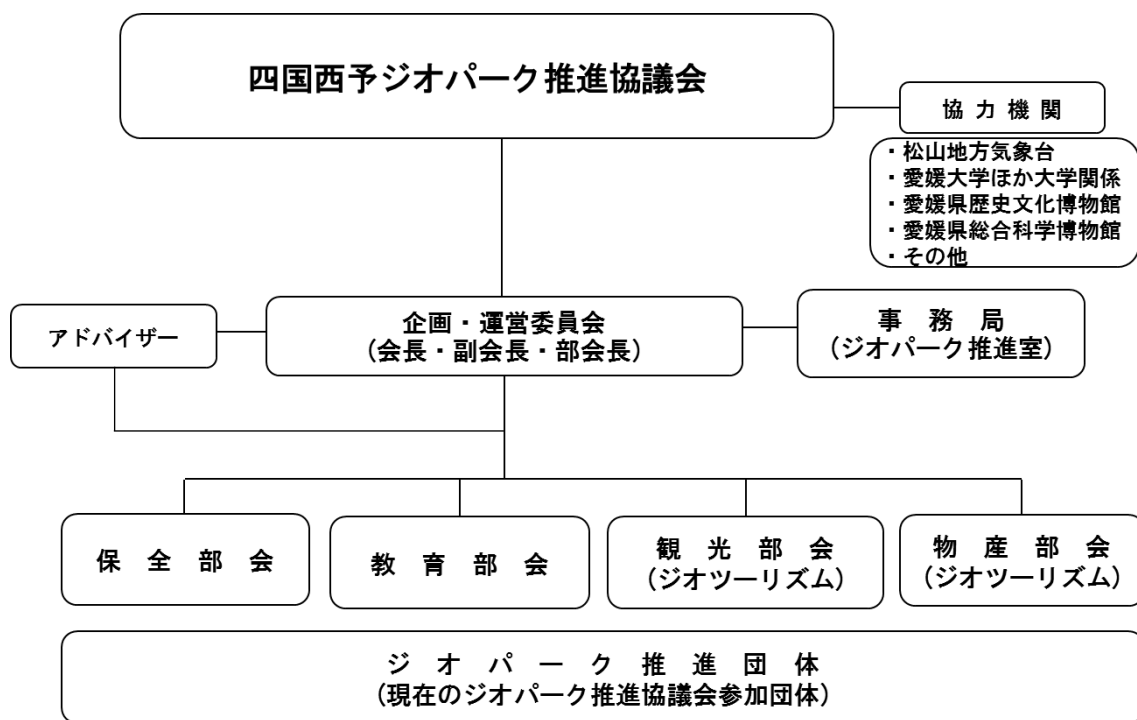


図 10.四国西予ジオパーク推進協議会組織図

(5) 効果的な広報活動の戦略的展開

計 画 内 容

対象を絞り、いかにジオパークの魅力を伝えていくかを定めることで効果的な広報活動を実現し、メディアや各種媒体に戦略的なPRを進める。

1. 現状・課題

四国西予ジオパークは、2013年に初めての認定を受けて6年目を迎えているが、ジオパークに関心をもっている市民はまだ多くないため、今後も効果的な広報を継続的に行っていく必要がある。

市民や団体と連携した様々なジオパーク活動が行われているものの、それらの活動が見えにくいことから、効果的な情報発信を戦略的に進める必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室はメディアや各種媒体を有効活用した効果的な広報活動を行うために、対象を絞り、ジオパークの魅力や地域の価値をどのように伝えるかを定めたブランディング戦略を2015年に策定した。

今後も引き続き、ブランディング戦略に基づきながら、ホームページやフェイスブック等による効果的な情報発信、統一デザインによる整備等による全方位に向けたメディアミックス活動によってブランドイメージの定着を図る。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
戦略的広報の検討											
戦略的広報の展開											

4. 達成目標

■HP閲覧者数の増加 対前年比10%増

(6) 四国西予ジオミュージックプロジェクトの展開

計 画 内 容

音楽とジオパークの融合というこれまでにない取り組みによって四国西予ジオパークのさらなる魅力を創造し、新たな観光客層の取り込みによる交流人口の拡大及び地域資源の磨き上げ、並びに四国西予ジオパークの知名度・認知度の向上に繋げる。

1. 現状・課題

平成27年度に国の地方創生交付金を活用して、ジオサイトの雰囲気と合致し、その魅力を高め、相乗効果を発揮する楽曲＝ジオミュージックをより多く集めるために、ネット上で開催した音楽コンテスト等によって多くの音楽コンテンツを作成した。

音楽コンテンツについては、著作権を西予市が有しているため、市内の映像や動画などと組み合わせた展開を図っている。また、BGMとしての利用を希望する市の関係施設や民間施設には無料で提供している。

2. 計画詳細

集めた音楽コンテンツを活用し、地域の様々な魅力を視覚的に伝えるプロモーションビデオの製作などの多面的な取り組みを進める。これにより、対外的な四国西予ジオパークのプロモーション活動を強化する。

並行して、ジオミュージックを活用した音楽コンテンツについては市内公共施設及び民間施設での展開を積極的に進め、市民への普及・浸透を図る。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
PRビデオの作成											
市内での活用											

4. 達成目標

■ジオミュージックやプロモーション動画を活用する施設数（累計）

令和元年度 10件以上、令和2年度 12件以上 令和3年度 15件以上

8 進行管理

ジオパーク推進室は、本推進計画の着実な実行を図るために、毎年度、取り組むべき各施策の進捗状況・効果等の進行管理を行い、その結果を評価・検証し、必要な見直し等を行い、次年度以降の展開に反映させる。社会経済情勢の変化、市民や来訪者のニーズの動向等を踏まえ、効果的かつ有効的な事業推進に努める。

このため、限られた予算を有効に活用し、より円滑な施策・事業を展開するために、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-検証-改善・見直し）のマネジメントサイクルを活用する。



図 11.PDCA マネジメントサイクル

PDCA サイクルにおける個々のプロジェクトマネジメントに関しては、原則として①推進計画に定めた達成目標、②推進計画に定めた各施策の取組状況のマトリクス図によって目標と進展状況との因果関係といった各施策の問題点や達成水準を分析する。

その際に、①advance（進化）、②Improve（改善）、③control（定着）、④Reschedule（工程組み直し）、⑤Replanning（再計画）、⑥Stop（取り止め）の6つの視点とその優先順位によって課題を明確化し確実な進捗管理と弾力的な計画推進を図る。

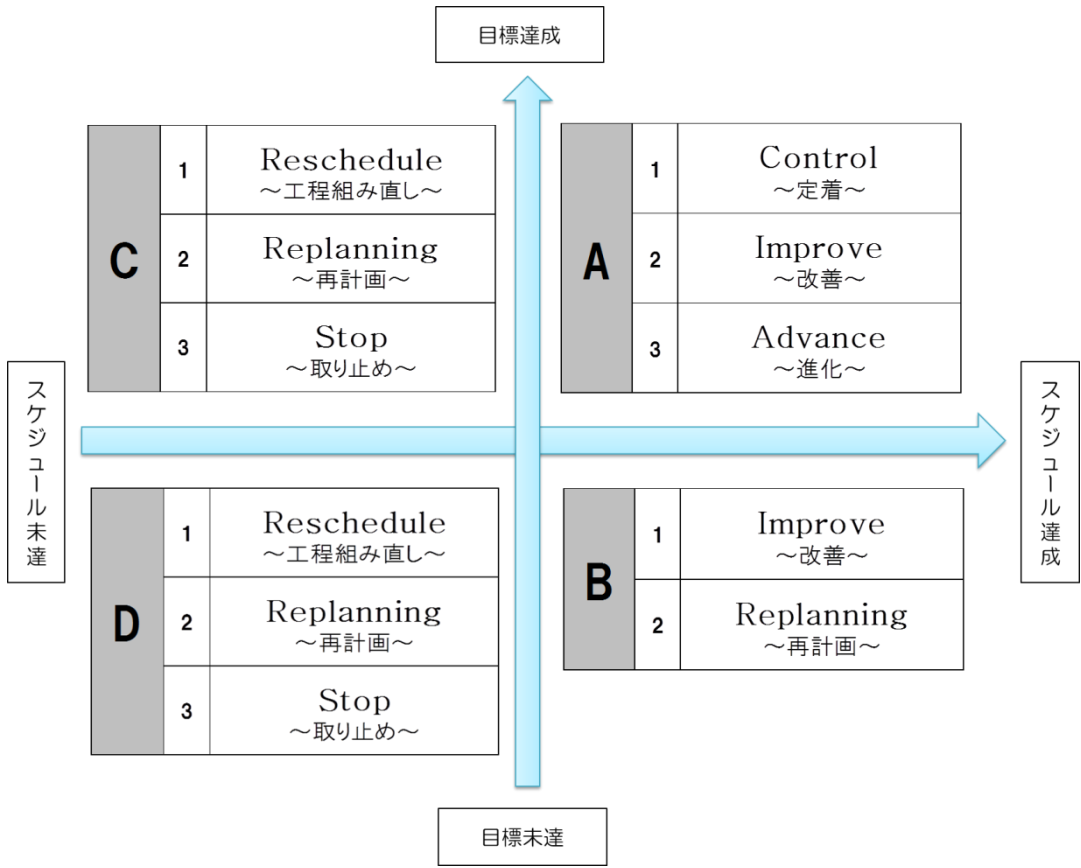


図 12. 目標とスケジュールのマトリクス図

マトリクス図から各施策の分析方法

(a) 『Advance（進化）』

施策改革の視点により、期待通りの成果が出ている施策を一層促進させるために根本的な見直しを行うことで新たな展開を講じるための方策を検討する。

『Improve（改善）』

施策改善の視点により、推進作業の中から浮き出た課題を解決するために、また、より早く、簡素に、より効果的な施策となるように改善するための方策を検討する。

(b) 『Control（定着）』

施策定着の視点により、施策の効果が持続するような推進体制の構築やそれに向けた主体的な取り組みにより継続的な定着化を図る。さらに、定着化の作業から出てきた課題に対して改善策を講じ定着と改善のサイクルを継続的に繰り返すための方策を検討する。

(c) 『Reschedule（工程組み直し）』

施策の工程組み直しの視点により、何らかの原因により発生した推進作業の遅れ作業スケジュールを組み直すことによって当初の目標を達成するための方策を検討する。

(d) 『Replanning（再計画）』

施策の再計画の視点により、推進作業を改善しても工程の組み直しを行っても施策の立て直しが困難と判断できるものについては、計画内容を見直して予算やマンパワー、推進体制等のどこに問題点があったのかを明確化し、解決策を踏まえた新たな達成目標とそれに沿った計画を組み立てるために施策を一から練り直す方策を検討する。

(e) 『Stop（取り止め）』

人は誰しもが過去に費やした埋没費用に捉われ、その回収のためにさらなるコストをかけてしまうというサunkコストのジレンマに陥る。特に、往々にして公共事業はサunkコストのジレンマに陥りやすいと言われており、事業継続に対して発生する追加コストにも着目した上で撤退するか継続するかの判断を下すことが重要である。

この施策取り止めの視点では、施策の推進において工程の組み直しや再計画を行っても状況好転が難しい施策については、サunkコストのジレンマに陥らないようそれまでに費やしたコスト（予算・時間・マンパワー等）に捉われず改めて施策の実効性、効率、効果を客観的に検証することで施策廃止に踏み切り負の連鎖を断ち切るための方策を検討する。